

ハード対策の進捗状況

【洪水を河川内で安全に流す対策】

洪水を安全に流すためのハード対策 概要図 <相模川>

凡例

- 浸透対策 (Green)
- パイピング対策 (Blue)
- 流下能力対策 (Red)
- 侵食・洗掘対策 (Purple)
- パイピング対策 (Dark Blue)
- 侵食・洗掘対策 (Purple)



※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

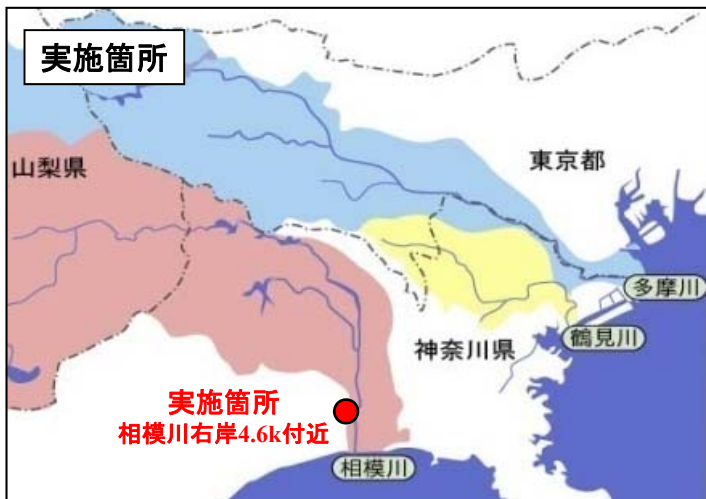
【ハード対策の主な取組】

洪水を河川内で安全に流す対策



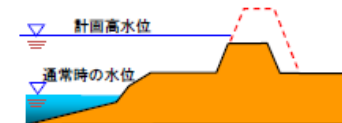
➤ 洪水を河川内で安全に流す対策として、堤防高が低いなど当面の目標に対して流下能力が不足している箇所の堤防整備等を行っています。

◆ 現在までの実施状況

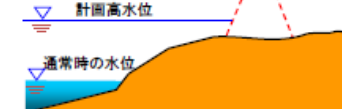


【未完成の堤防】

○ 堤防の断面が不足

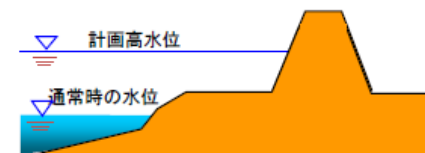


○ 堤防がない



【完成された堤防】

○ 堤防の高さ・幅ともに計画上の断面を確保

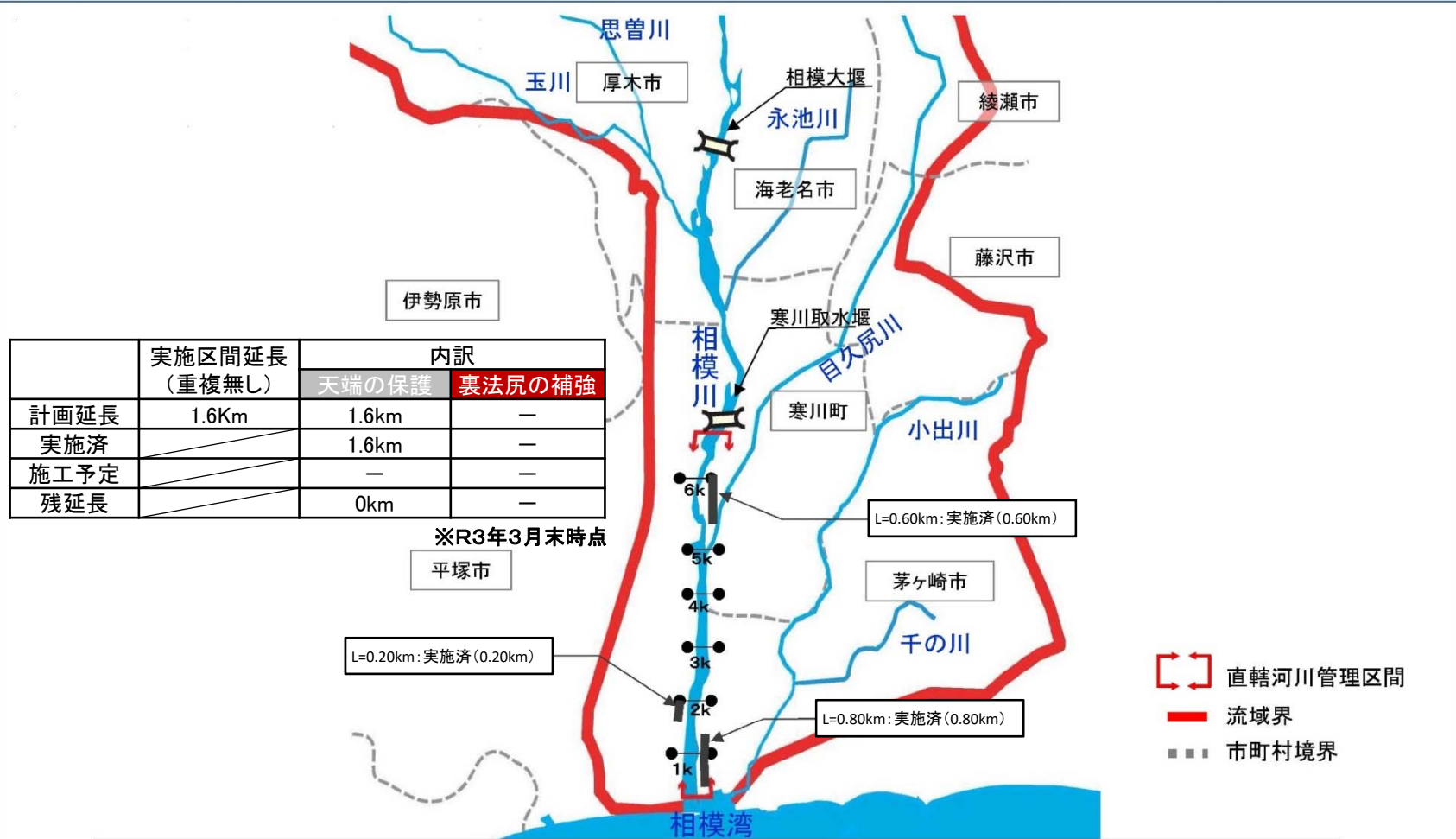


整備後
(H29年3月完成)

【危機管理型ハード対策】

危機管理型ハード対策 概要図 ＜相模川＞

凡例
 天端の保護
 裏法尻の補強



	実施区間延長 (重複無し)	内訳	
		天端の保護	裏法尻の補強
計画延長	1.6Km	1.6km	—
実施済		1.6km	—
施工予定		—	—
残延長		0km	—

※R3年3月末時点

※具体的実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。
 ※危機管理型ハード対策と併せて、住民が自らリスクを察知し、自主的に避難できるようなソフト対策を実施予定です。
 ※表示されている各対策の延長計については、四捨五入の関係で概要図と合致しない場合があります。
 ※今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。

【ハード対策の主な取組】 危機管理型ハード対策

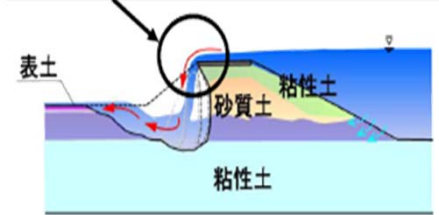
➤ 決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策(危機管理型ハード対策)として、堤防における『堤防天端の保護』を実施しています。

◆ 現在までの実施状況



堤防天端の保護

○ 堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている。

